

# 航空機操縦士養成連絡協議会

## 技量向上ワーキンググループ 令和5年度とりまとめ

### 1. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

### 2. 令和5年度における取組み

令和5年度は、以下のイベントを行った。そのほか、幹事会及び協議会を開催し、過年度の活動の振り返り及び今後の進め方について検討を行った。

#### ■外部講師による訓練機関等を対象とした講演会について

エアラインにおいて操縦士として活躍するための技量としては、操縦技術等のテクニカルなものだけではなく、コミュニケーションスキルやモチベーションなどのノンテクニカルな部分も求められる。令和5年度は、技量を習得するにあたっての根底となる部分の必要性について、エアラインパイロットを目指す訓練生・学生に伝えるべく、外部より講師を招いての講演会を令和5年5月17日にZoomを利用したオンライン形式で開催した。

講師として、不慮の交通事故で右目の視力を失いながらも、パイロットになる夢をあきらめず、単身アメリカに渡り自家用、事業用パイロットの技能証明、教育証明を取得

された経歴を持つ「前田伸二氏」を招き、ご自身の経験等を踏まえてのメッセージを伝えてもらう機会を設けた。航空大学校、崇城大学、桜美林大学、第一工業大学、法政大学から学生・訓練生 44 名に加え、ワーキンググループ参加養成機関・大学の職員や国土交通省職員等のオブザーバー 21 名の計 65 名が参加し、実施後にはアンケートを実施した。参加者からは特にモチベーション面の改善や将来の不安の解消などに関する好意的な意見が寄せられた。

### 3. 今後の取組み

技量向上ワーキンググループでは、これまで航空会社及び養成機関を交えた意見交換、情報共有等により、より質の高い訓練生の養成を目指すべく活動を進めてきたが、「航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会」では、引き続き私立大学の養成レベル向上を課題とする声もあがっていることから、JAPA の乗員養成検討委員会とも連携しながら、私立大学や航空会社等へのヒアリング等を実施し課題の抽出を行う。

<<添付資料>>

- ・技量向上ワーキンググループ構成員名簿